

水産のまち女川復活に向け 女川魚市場東荷捌場が完成しました。



南側鳥瞰

CONCEPT

まちの基幹産業の早期復興に向けて
製品化による現場省力化と工期縮小

本荷捌場は水揚げ繁忙期の機能拡張のため、震災以前より計画を予定していましたが、東日本大震災の影響で既存施設が全棟被災したため、計画の見直しが行われました。

周辺敷地の護岸復旧や、地盤造成等、復旧事業との干渉を極力回避し、短期間で工事完成を実現するため、18m大スパンによる均等グリッド平面、片持ち大庇、駐車場床板のPCa化を行い、モジュール化による工場製品の多用により、合理化と工期短縮を目指しました。



既存市場側



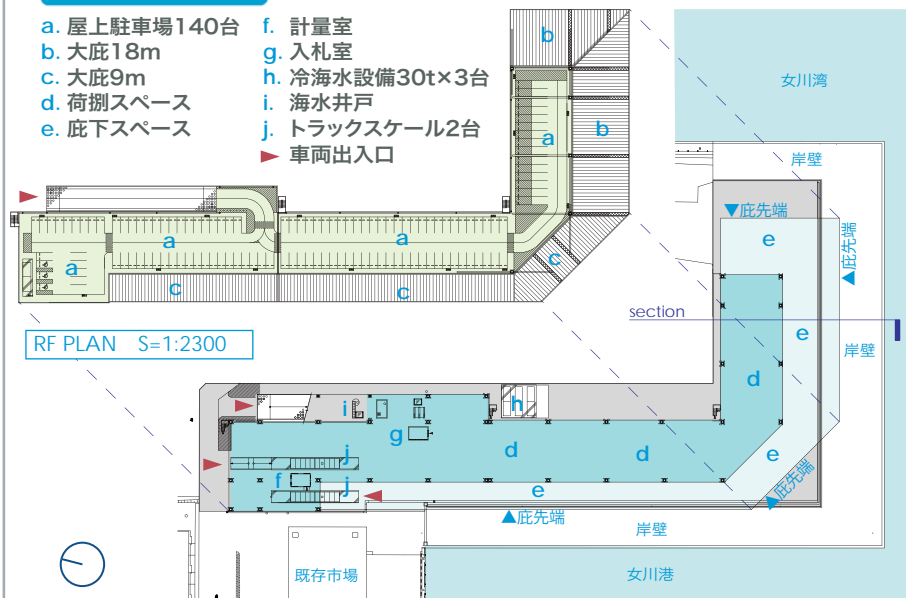
東荷捌場全景



屋上駐車場

PLAN

- a. 屋上駐車場140台
- b. 大庇18m
- c. 大庇9m
- d. 荷捌スペース
- e. 底下スペース
- f. 計量室
- g. 入札室
- h. 冷海水設備30t×3台
- i. 海水井戸
- j. トラックスケール2台
- ▶ 車両出入口



RF PLAN S=1:2300

1F PLAN S=1:2300

DATA

敷地面積	36,396.83㎡
建築面積	7,472.87㎡
延床面積	7,759.18㎡
建ぺい率	35.02%
容積率	37.80%
構造・規模	S造、PCa造（スラブ） 地上1階、屋上駐車場140台 杭基礎
最高高さ	13.3m
軒高	8.3m
階高	8.0m
天井高さ	5.5m
主なスパン	18.0m×18.0m
設計期間	2013.03~2013.09
工事期間	2013.11~2015.06

075

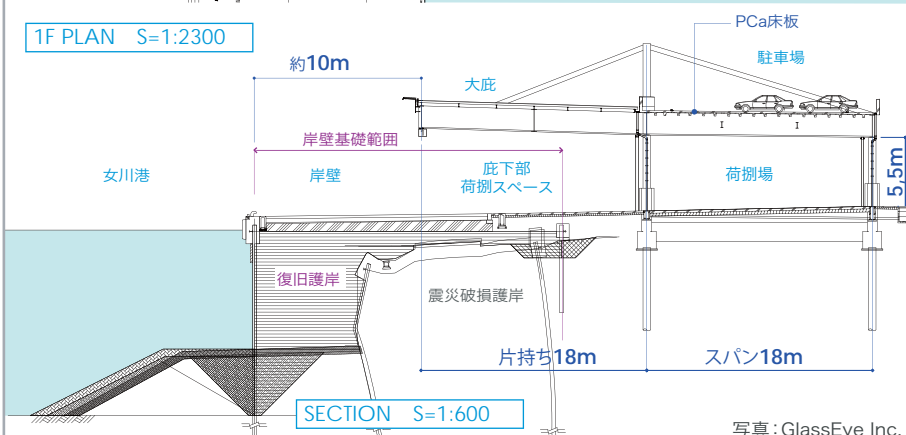
TOPICS

18mの片持ち大庇

本荷捌場には高度衛生化の観点から、鳥害防止ため、護岸先端から約10mに荷捌スペースを設置する必要がありました。

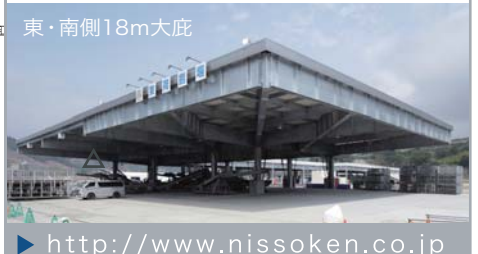
震災で破損した護岸基礎等の地中埋設物を回避しながら施設要件を満足するため、駐車場の積載荷重や、海からの風荷重に対して様々な条件下で構造解析を行い、最大18mの片持構造による大庇を実現しています。

東・南側18m大庇



SECTION S=1:600

写真: GlassEye Inc.



▶ <http://www.nissoken.co.jp>